



平成 25 年 7 月 26 日

各 位

会 社 名 フリービット株式会社
(コード番号 3843:東証マザーズ)
本社所在地 東京都渋谷区円山町3番6号
代 表 者 代表取締役社長 石田 宏樹
問 合 せ 先 グループ経営管理本部長 清水 高
電 話 番 号 03-5459-0522(代 表)
(URL <http://www.freebit.com/>)

(訂正)「平成24年4月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)」の一部訂正について

当社は、平成25年6月26日付の当社適時開示「6月7日に開示致しました「当社連結子会社における不明瞭な取引及び会計処理に関するお知らせ」についての調査状況及び決算発表予定日についてのご報告」でお知らせしましたとおり、過年度決算短信の訂正作業を進めてまいりました。

このたび、平成23年9月13日付「平成24年4月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)」の訂正作業が完了しましたので、訂正内容についてお知らせします。

訂正箇所が多数に上るため、訂正前及び訂正後の全文をそれぞれ添付し、訂正箇所には下線を付して表示しております。

以 上

(訂正後)



平成24年4月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成23年9月13日

上場取引所 東

上場会社名 フリービット株式会社
コード番号 3843 URL <http://www.freebit.com/>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 石田 宏樹
問合せ先責任者 (役職名) グループ経営管理本部長 (氏名) 清水 高 TEL 03-5459-0522
四半期報告書提出予定日 平成23年9月14日
配当支払開始予定日 -
四半期決算補足説明資料作成の有無: 有
四半期決算説明会開催の有無: 有 (機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成24年4月期第1四半期の連結業績(平成23年5月1日～平成23年7月31日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年4月期第1四半期	5,000	38.2	146	-	190	-	88	-
23年4月期第1四半期	3,617	12.1	△155	-	△111	-	△135	-

(注) 包括利益 24年4月期第1四半期 78百万円(-%) 23年4月期第1四半期 △134百万円(-%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
24年4月期第1四半期	1,792.20	1,766.67
23年4月期第1四半期	△2,685.52	-

(注) 平成23年4月期第1四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
24年4月期第1四半期	19,977	6,539	31.4
23年4月期	20,929	6,649	30.0

(参考) 自己資本 24年4月期第1四半期 6,267百万円 23年4月期 6,276百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
23年4月期	-	0.00	-	1,800.00	1,800.00
24年4月期	-	-	-	-	-
24年4月期(予想)	-	0.00	-	3,000.00	3,000.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無: 無

3. 平成24年4月期の連結業績予想(平成23年5月1日～平成24年4月30日)

(%表示は、通期は対前期、第2四半期(累計)は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	9,500	△6.6	200	-	220	-	100	-	1,960.36
通期	20,500	△11.6	900	477.6	950	412.3	500	-	9,801.81

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無: 無

4. その他

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無
新規 一社（社名）、除外 一社（社名）
（注）当四半期会計期間における連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動の有無となります。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	24年4月期1Q	51,029株	23年4月期	51,011株
② 期末自己株式数	24年4月期1Q	1,390株	23年4月期	1,390株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	24年4月期1Q	49,631株	23年4月期1Q	50,430株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外ですが、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了しております。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

上記に記載した予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確実な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化等により上記予想数値と異なる場合があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	4
2. サマリー情報（その他）に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	8
(3) 継続企業の前提に関する注記	9
(4) セグメント情報等	9
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、緩やかな回復の兆しがみえたものの、本年3月11日に発生した東日本大震災の影響により、電力供給の制限をはじめとした事業活動への懸念が払拭できず、依然として不透明な状況で推移いたしました。

当社グループが事業を行うインターネットの分野におきましては、ブロードバンド契約者数が平成23年3月末時点で前年比191万契約増加の3,493万契約となり、中でも通信速度が最も高速なFTTHの契約数が前年比243万契約増加の2,023万契約となりましたが、その伸長率は鈍化傾向にあります。

一方で、インターネットにアクセスすることで利用者の利便性が向上するスマートフォンやタブレット端末などのモバイル機器は急増しており、これに伴い、公衆無線LANアクセスサービスやモバイルデータ通信の契約者数が、平成23年3月末時点で前年比574万契約増加の10,960万契約と、引き続き増加しております。一方で、インターネットに接続する機器の急増により、インターネット接続に不可欠であるIPv4アドレスの枯渇が現実的なものとなったため、全世界的に次世代のインターネットプロトコルであるIPv6への対応を迫られることとなりました。

当社グループでは、このようなIPv4アドレスの枯渇を想定し、9カ国と一つの地域で特許を取得している仮想化技術をベースとしたソフトウェアの導入のみで、安価かつ即座にIPv6に対応することができるサービスを開発しており、またそれを活かしたIPv6標準対応のクラウドサービスの提供も開始しております。

今後も、この技術力を活かしたプロダクトを提供してきた実績を活かし、引き続き、通信事業者をはじめとした各事業会社やエンドユーザーの皆様に対して、ソリューションを提供してまいります。

当社は、当連結会計年度を事業構造改革プラン『SiLK Renaissance』の実行期と設定し、経営リソースをコア事業に集中しコア事業を成長させることで業績拡大をはかっております。当第1四半期連結累計期間におきましては、コア事業の中でも特に下記を重点項目と設定しております。

その結果、コア事業の売上が前年同期比50.7%増となり、営業損益につきましても黒字化いたしました。

- ・ VDC (Virtual Data Center)、VPS (Virtual Private Server) を中心としたクラウドサービス
- ・ M2M領域のソフトウェアであるServersManの日本及び中国での事業化
- ・ MVNO (Mobile Virtual Network Operator) によるモバイルデータ通信ユーザーの獲得
- ・ 連結子会社の株式会社フルスピードを中心としたインターネットマーケティング

クラウドサービスのうち、法人向けのクラウドサービスであるVDCは堅調にクライアント数と仮想サーバ稼働数が増加いたしました。さらに、「フリービットクラウド VDC China Package」がグリー株式会社のGREE Platformの推奨環境に採用され、中国のSAP事業者向けのサービスが具体的に進展するなど、今後の事業拡大のための礎を構築することができました。また、個人向けのクラウドサービスであるVPSである「ServersMan@VPS」におきましても順調に新規ユーザーを獲得しており、さらに継続して新しい技術の取り込みやサービス内容の向上を行うことにより、他社との差別化をはかっております。

個人向けユビキタスプロバイダである株式会社ドリーム・トレイン・インターネットがISP接続サービス等を提供するB2Cにおきましても、構造改革により新規顧客獲得機能の効率化をはかるとともに、個人向けのクラウドサービスであるVPSである「ServersMan@VPS」のような独自性の高い商品によって差別化をはかったことで、収益性が大きく改善いたしました。また、競争力の高いMVNOサービスを開始したことで、新規ユーザーだけではなく既存ユーザーによる追加申し込みも増加し、一人1アカウント以上の獲得が可能な仕組みが構築できた結果、ユーザーの獲得が顕在化してまいりました。

また、株式会社フルスピードの経営リソースを本業に集中させる体制が整ったことで、インターネットマーケティングにおきましても、堅調な実績推移を示すこととなりました。今後は当社グループの有する技術力を活かしたサービスの投入も行ってまいります。

以上の結果、当社グループの当第1四半期連結累計期間の売上高は、前年同期比38.2%増の5,000,457千円となり、営業利益が146,080千円、経常利益が190,240千円、四半期純利益が88,948千円と、それぞれ黒字転換を果たしております。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

なお、従来よりノンコア事業と位置付けておりました「その他衣料販売」より撤退いたしました。この撤退により、当第1四半期連結累計期間以降、当該事業での損益計上はありません。

① ISP's ISP

当第1四半期連結累計期間におきましては、MVNOを新たなサービスとして商品ラインナップに加えるISP事業者が増加したことで、モバイルユーザーの増加が顕著になりつつあり、今後も継続する傾向にあります。また、前第2四半期連結会計期間に株式会社ベッコアメ・インターネットを子会社化したことにより事業規模が拡大したことで、全般的にも堅調に推移いたしました。引き続き、グループシナジーを活かした新しい積み上げ商材による事業規模の拡大をはかってまいります。

以上の結果、売上高は1,838,372千円（前年同期比13.5%増）、セグメント利益は258,753千円（前年同期比35.7%増）となりました。

② iDC's iDC

当社の強みであるIPv6と仮想化技術を駆使した「VDC」サービスが引き続き増加し、8,000を超える仮想サーバを稼働させることができました。また、中国のSAP事業者を中心に新規クライアントの獲得活動も活発化しており、引き続き事業規模の拡大をはかってまいります。当事業は、投資が先行するビジネスモデルであるため、当第1四半期連結累計期間は赤字であります。事業規模が順調に拡大していることにより、赤字幅が縮小しております。引き続き利用者数を増加していくことで、さらなる収益性の向上に努めてまいります。

以上の結果、売上高は445,759千円（前年同期比11.5%減）、セグメント損失は37,573千円（前年同期は78,750千円のセグメント損失）となりました。

③ Maker's Maker

中国最大規模のコンシューマーエレクトロニクス企業であるaigo Digital Technology Co. Ltd (aigo) との提携に成功したことで、当社とaigoは、ユビキタス家電の開発を行う中国の合弁会社「SmartCloud」を設立し、より大規模でのユビキタス家電の開発体制が整ったことに加えて、aigo製品の日本における独占販売権を取得し、高品質かつコストパフォーマンスの高いユビキタス家電の独占販売が可能になったことで、事業構造改革プラン『SiLK Renaissance』に則り、自社による製品開発から撤退いたしました。当第1四半期連結累計期間を含む上期につきましては、以前の商品の在庫圧縮を講じてまいりますので、そのためのコストが発生いたします。

以上の結果、売上高は375,098千円（前年同期比32.5%減）、セグメント損失は131,313千円（前年同期は79,920千円のセグメント損失）となりました。

④ B2C

成長著しいクラウド領域とモバイル通信領域に対して積極的な事業展開を行いました。その結果、これまでの固定回線によるインターネット接続サービスに加えて、「ServersMan@VPS」や「ServersMan@Disk」といったエンドユーザー向けクラウドサービスの獲得とモバイル通信サービスの獲得が増え、両方が新規獲得数の70%を占めるまでに増加しました。両サービスは、今後も増加傾向にあります。

以上の結果、売上高は1,070,127千円（前年同期比1.8%増）、セグメント利益は172,281千円（前年同期は96,155千円のセグメント損失）となりました。

⑤ InternetMarketing

SEO（検索エンジン最適化）やリスティング広告（検索連動型広告）等による成功報酬型収入形態から、定額制の継続課金型収入形態へと構造転換を行っていることで、収益の安定化と改善を実現しております。また、当社グループの技術力を活かした新しいサービスの投入を開発し投入していくことで、他社との差別化と更なる利益の積み上げを行ってまいります。

以上の結果、売上高は1,472,230千円（前年同期比3,935.2%増）、セグメント利益は68,237千円（前年同期は6,740千円のセグメント損失）となりました。

⑥ SI

東日本大震災による企業の経済活動の停滞傾向は未だ否めず、企業の情報投資は抑制傾向が依然として続いており、顧客の値下げ要求と相まって、厳しい事業環境となりました。

以上の結果、売上高は146,909千円（前年同期比57.8%減）、セグメント損失は19,124千円（前年同期は39,294千円のセグメント利益）となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

当第1四半期連結会計期間の総資産は19,977,282千円となり、前連結会計年度と比べて952,400千円減少しました。これは主として、ギルドコーポレーション株式会社が連結の範囲から外れたことにより、のれんが796,122千円減少したことによるものです。

負債は13,437,423千円となり、前連結会計年度と比べて842,729千円減少しました。これは主として、長期借入金が増加したものの、短期借入金、支払手形及び買掛金が788,982千円、未払金が98,848千円及び負ののれんが82,667千円減少したことによるものです。

純資産は、四半期純利益により利益剰余金が増加したものの、ギルドコーポレーション株式会社が連結の範囲から外れたことにより、少数株主持分が減少したことにより、前連結会計年度と比べて109,671千円減少の6,539,859千円となり、この結果、自己資本比率は31.4%となりました。

2. サマリー情報（その他）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年4月30日)	当第1四半期連結会計期間 (平成23年7月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,095,929	5,443,711
受取手形及び売掛金	<u>3,501,696</u>	<u>3,192,849</u>
商品及び製品	953,039	<u>459,670</u>
仕掛品	2,548	28,999
原材料及び貯蔵品	16,079	8,656
その他	<u>1,886,091</u>	<u>1,802,896</u>
貸倒引当金	△121,192	△108,230
流動資産合計	<u>10,334,191</u>	<u>10,828,553</u>
固定資産		
有形固定資産	<u>1,450,081</u>	<u>1,269,950</u>
無形固定資産		
のれん	<u>6,010,803</u>	<u>4,965,428</u>
ソフトウェア	<u>193,894</u>	185,169
その他	36,650	50,632
無形固定資産合計	<u>6,241,349</u>	<u>5,201,230</u>
投資その他の資産		
投資有価証券	1,555,535	1,478,262
差入保証金	769,434	534,801
その他	<u>1,232,996</u>	<u>1,145,395</u>
貸倒引当金	<u>△653,905</u>	<u>△480,912</u>
投資その他の資産合計	<u>2,904,060</u>	<u>2,677,547</u>
固定資産合計	<u>10,595,491</u>	<u>9,148,728</u>
資産合計	<u>20,929,683</u>	<u>19,977,282</u>
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	<u>913,416</u>	<u>124,434</u>
短期借入金	3,970,030	2,085,368
1年内返済予定の長期借入金	2,153,724	2,169,236
未払金	<u>2,853,160</u>	<u>2,754,311</u>
未払法人税等	154,298	<u>120,973</u>
引当金	106,717	130,528
その他	<u>894,946</u>	<u>792,817</u>
流動負債合計	<u>11,046,293</u>	<u>8,177,669</u>
固定負債		
社債	400,000	350,000
長期借入金	1,928,877	4,134,123
引当金	3,556	5,396
資産除去債務	46,420	34,580
負ののれん	346,000	263,332
その他	509,004	472,320
固定負債合計	<u>3,233,859</u>	<u>5,259,754</u>
負債合計	<u>14,280,152</u>	<u>13,437,423</u>

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年4月30日)	当第1四半期連結会計期間 (平成23年7月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,043,285	3,045,085
資本剰余金	1,671,502	1,673,302
利益剰余金	<u>1,920,975</u>	<u>1,920,605</u>
自己株式	<u>△364,327</u>	<u>△364,327</u>
株主資本合計	<u>6,271,435</u>	<u>6,274,665</u>
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	9,953	4,723
為替換算調整勘定	<u>△4,650</u>	<u>△11,939</u>
その他の包括利益累計額合計	<u>5,302</u>	<u>△7,216</u>
新株予約権	828	828
少数株主持分	<u>371,964</u>	<u>271,581</u>
純資産合計	<u>6,649,530</u>	<u>6,539,859</u>
負債純資産合計	<u>20,929,683</u>	<u>19,977,282</u>

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成22年5月1日 至平成22年7月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成23年5月1日 至平成23年7月31日)
売上高	3,617,902	<u>5,000,457</u>
売上原価	2,540,127	<u>3,325,919</u>
売上総利益	1,077,774	<u>1,674,537</u>
販売費及び一般管理費	1,232,783	<u>1,528,457</u>
営業利益又は営業損失(△)	△155,008	<u>146,080</u>
営業外収益		
受取利息	754	3,838
受取配当金	119	744
貸倒引当金戻入額	—	15,924
負ののれん償却額	82,667	82,667
その他	15,182	17,958
営業外収益合計	98,723	121,133
営業外費用		
支払利息	22,352	42,338
持分法による投資損失	27,332	20,724
その他	5,043	<u>13,909</u>
営業外費用合計	54,728	<u>76,973</u>
経常利益又は経常損失(△)	△111,013	<u>190,240</u>
特別利益		
貸倒引当金戻入額	4,352	—
投資有価証券売却益	—	7,614
特別利益合計	4,352	7,614
特別損失		
減損損失	—	<u>41,236</u>
固定資産除却損	41	1,811
投資有価証券評価損	—	40,087
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	28,620	—
その他	—	8,168
特別損失合計	28,661	<u>91,304</u>
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期 純損失(△)	△135,322	<u>106,550</u>
法人税、住民税及び事業税	27,233	44,746
法人税等調整額	△31,229	<u>△29,172</u>
法人税等合計	△3,995	<u>15,573</u>
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失(△)	△131,326	<u>90,977</u>
少数株主利益	4,103	<u>2,029</u>
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△135,429	<u>88,948</u>

(四半期連結包括利益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成22年5月1日 至平成22年7月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成23年5月1日 至平成23年7月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失(△)	△131,326	<u>90,977</u>
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△2,676	△5,228
持分法適用会社に対する持分相当額	—	△7,288
その他の包括利益合計	△2,676	△12,517
四半期包括利益	△134,003	<u>78,460</u>
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△138,135	<u>76,429</u>
少数株主に係る四半期包括利益	4,132	<u>2,030</u>

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) セグメント情報等

I 前第1四半期連結累計期間(自平成22年5月1日至平成22年7月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				
	ISP's ISP	iDC's iDC	Maker's Maker	B2C	Internet Marketing
売上高					
外部顧客への売上高	1,203,698	492,497	541,618	1,051,225	36,484
セグメント間の内部売上高 又は振替高	415,343	11,057	13,823	198	—
計	1,619,041	503,554	555,441	1,051,424	36,484
セグメント利益又は損失(△)	190,727	△78,750	△79,920	△96,155	△6,740

(単位:千円)

	報告セグメント	その他	合計	調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	SI				
売上高					
外部顧客への売上高	213,841	78,535	3,617,902	—	3,617,902
セグメント間の内部売上高 又は振替高	134,386	2,058	576,867	△576,867	—
計	348,227	80,594	4,194,769	△576,867	3,617,902
セグメント利益又は損失(△)	39,294	23,235	△8,309	△146,699	△155,008

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△146,699千円には、のれん償却額△108,875千円、未実現利益の調整額△38,378千円及びその他の連結調整額554千円が含まれております。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

Ⅱ 当第1四半期連結累計期間(自平成23年5月1日至平成23年7月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				
	ISP's ISP	iDC's iDC	Maker's Maker	B2C	Internet Marketing
売上高					
外部顧客への売上高	<u>1,489,245</u>	<u>410,402</u>	314,082	1,068,260	<u>1,453,522</u>
セグメント間の内部売上高 又は振替高	349,126	35,356	61,015	1,866	18,708
計	<u>1,838,372</u>	<u>445,759</u>	375,098	1,070,127	<u>1,472,230</u>
セグメント利益又は損失(△)	<u>258,753</u>	<u>△37,573</u>	<u>△131,313</u>	172,281	<u>68,237</u>

(単位:千円)

	報告セグメント	その他	合計	調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	SI				
売上高					
外部顧客への売上高	140,064	124,879	<u>5,000,457</u>	—	<u>5,000,457</u>
セグメント間の内部売上高 又は振替高	6,845	128	473,046	△473,046	—
計	146,909	125,007	<u>5,473,503</u>	△473,046	<u>5,000,457</u>
セグメント利益又は損失(△)	△19,124	<u>△10,228</u>	<u>301,032</u>	<u>△154,951</u>	<u>146,080</u>

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△154,951千円には、のれん償却額△148,046千円、未実現利益の調整額△5,933千円及びその他の連結調整額△971千円が含まれております。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

前第1四半期連結累計期間において、「その他」に含めていた「InternetMarketing」については、前第2四半期連結会計期間より、企業のWeb戦略支援等を行う(株)フルスピードを連結の範囲に含めたため重要性が増し、報告セグメントといたしました。なお、前第1四半期連結累計期間のセグメント情報は、当第1四半期連結累計期間の報告セグメントの区分に基づき組替えたものを開示しております。

前第2四半期連結会計期間において、アパレルの製造・販売を行うギルドコーポレーション(株)を連結の範囲に含めたため、報告セグメントとして「その他衣料販売」を追加いたしました。また、当第1四半期連結累計期間において、ギルドコーポレーション(株)を連結の範囲から除いたため、報告セグメントから「その他衣料販売」を除外しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「Internet Marketing」及び「その他」において、固定資産の減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第1四半期連結累計期間において、それぞれ12,016千円及び29,220千円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

「全社」において、ギルドコーポレーション(株)を連結の範囲から除いたため、のれんが減少しております。なお、当該事象によるのれんの減少額は、当第1四半期連結累計期間において796,122千円であります。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

(訂正前)



平成24年4月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成23年9月13日

上場取引所 東

上場会社名 フリービット株式会社
コード番号 3843 URL <http://www.freebit.com/>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 石田 宏樹
問合せ先責任者 (役職名) グループ経営管理本部長 (氏名) 清水 高 TEL 03-5459-0522
四半期報告書提出予定日 平成23年9月14日
配当支払開始予定日 -
四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成24年4月期第1四半期の連結業績(平成23年5月1日～平成23年7月31日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年4月期第1四半期	5,035	39.2	158	-	206	-	158	-
23年4月期第1四半期	3,617	12.1	△155	-	△111	-	△135	-

(注) 包括利益 24年4月期第1四半期 147百万円(-%) 23年4月期第1四半期 △134百万円(-%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
24年4月期第1四半期	3,192.19	3,154.55
23年4月期第1四半期	△2,685.52	-

(注) 平成23年4月期第1四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
24年4月期第1四半期	20,069	6,630	31.7
23年4月期	20,941	6,670	30.1

(参考) 自己資本 24年4月期第1四半期 6,356百万円 23年4月期 6,296百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
23年4月期	-	0.00	-	1,800.00	1,800.00
24年4月期	-	-	-	-	-
24年4月期(予想)	-	0.00	-	3,000.00	3,000.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成24年4月期の連結業績予想(平成23年5月1日～平成24年4月30日)

(%表示は、通期は対前期、第2四半期(累計)は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	9,500	△6.8	200	-	220	-	100	-	1,960.36
通期	20,500	△11.9	900	373.4	950	332.3	500	-	9,801.81

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

4. その他

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無
新規 一社（社名）、除外 一社（社名）
（注）当四半期会計期間における連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動の有無となります。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	24年4月期1Q	51,029株	23年4月期	51,011株
② 期末自己株式数	24年4月期1Q	1,390株	23年4月期	1,390株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	24年4月期1Q	49,631株	23年4月期1Q	50,430株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外ですが、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了しております。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

上記に記載した予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確実な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化等により上記予想数値と異なる場合があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	4
2. サマリー情報（その他）に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	8
(3) 継続企業の前提に関する注記	9
(4) セグメント情報等	9
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、緩やかな回復の兆しがみえたものの、本年3月11日に発生した東日本大震災の影響により、電力供給の制限をはじめとした事業活動への懸念が払拭できず、依然として不透明な状況で推移いたしました。

当社グループが事業を行うインターネットの分野におきましては、ブロードバンド契約者数が平成23年3月末時点で前年比191万契約増加の3,493万契約となり、中でも通信速度が最も高速なFTTHの契約数が前年比243万契約増加の2,023万契約となりましたが、その伸長率は鈍化傾向にあります。

一方で、インターネットにアクセスすることで利用者の利便性が向上するスマートフォンやタブレット端末などのモバイル機器は急増しており、これに伴い、公衆無線LANアクセスサービスやモバイルデータ通信の契約者数が、平成23年3月末時点で前年比574万契約増加の10,960万契約と、引き続き増加しております。一方で、インターネットに接続する機器の急増により、インターネット接続に不可欠であるIPv4アドレスの枯渇が現実的なものとなったため、全世界的に次世代のインターネットプロトコルであるIPv6への対応を迫られることとなりました。

当社グループでは、このようなIPv4アドレスの枯渇を想定し、9カ国と一つの地域で特許を取得している仮想化技術をベースとしたソフトウェアの導入のみで、安価かつ即座にIPv6に対応することができるサービスを開発しており、またそれを活かしたIPv6標準対応のクラウドサービスの提供も開始しております。

今後も、この技術力を活かしたプロダクトを提供してきた実績を活かし、引き続き、通信事業者をはじめとした各事業会社やエンドユーザーの皆様に対して、ソリューションを提供してまいります。

当社は、当連結会計年度を事業構造改革プラン『SiLK Renaissance』の実行期と設定し、経営リソースをコア事業に集中しコア事業を成長させることで業績拡大をはかっております。当第1四半期連結累計期間におきましては、コア事業の中でも特に下記を重点項目と設定しております。

その結果、コア事業の売上高が前年同期比51.8%増となり、営業損益につきましても黒字化いたしました。

- ・ VDC (Virtual Data Center)、VPS (Virtual Private Server) を中心としたクラウドサービス
- ・ M2M領域のソフトウェアであるServersManの日本及び中国での事業化
- ・ MVNO (Mobile Virtual Network Operator) によるモバイルデータ通信ユーザーの獲得
- ・ 連結子会社の株式会社フルスピードを中心としたインターネットマーケティング

クラウドサービスのうち、法人向けのクラウドサービスであるVDCは堅調にクライアント数と仮想サーバ稼働数が増加いたしました。さらに、「フリービットクラウド VDC China Package」がグリー株式会社のGREE Platformの推奨環境に採用され、中国のSAP事業者向けのサービスが具体的に進展するなど、今後の事業拡大のための礎を構築することができました。また、個人向けのクラウドサービスであるVPSである「ServersMan@VPS」におきましても順調に新規ユーザーを獲得しており、さらに継続して新しい技術の取り込みやサービス内容の向上を行うことにより、他社との差別化をはかっております。

個人向けユビキタスプロバイダである株式会社ドリーム・トレイン・インターネットがISP接続サービス等を提供するB2Cにおきましても、構造改革により新規顧客獲得機能の効率化をはかるとともに、個人向けのクラウドサービスであるVPSである「ServersMan@VPS」のような独自性の高い商品によって差別化をはかったことで、収益性が大きく改善いたしました。また、競争力の高いMVNOサービスを開始したことで、新規ユーザーだけではなく既存ユーザーによる追加申し込みも増加し、一人1アカウント以上の獲得が可能な仕組みが構築できた結果、ユーザーの獲得が顕在化してまいりました。

また、株式会社フルスピードの経営リソースを本業に集中させる体制が整ったことで、インターネットマーケティングにおきましても、堅調な実績推移を示すこととなりました。今後は当社グループの有する技術力を活かしたサービスの投入も行ってまいります。

以上の結果、当社グループの当第1四半期連結累計期間の売上高は、前年同期比39.2%増の5,035,179千円となり、営業利益が158,416千円、経常利益が206,545千円、四半期純利益が158,430千円と、それぞれ黒字転換を果たしております。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

なお、従来よりノンコア事業と位置付けておりました「その他衣料販売」より撤退いたしました。この撤退により、当第1四半期連結累計期間以降、当該事業での損益計上はありません。

① ISP's ISP

当第1四半期連結累計期間におきましては、MVNOを新たなサービスとして商品ラインナップに加えるISP事業者が増加したことで、モバイルユーザーの増加が顕著になりつつあり、今後も継続する傾向にあります。また、前第2四半期連結会計期間に株式会社ベッコアメ・インターネットを子会社化したことにより事業規模が拡大したことで、全般的にも堅調に推移いたしました。引き続き、グループシナジーを活かした新しい積み上げ商材による事業規模の拡大をはかってまいります。

以上の結果、売上高は1,844,494千円（前年同期比13.9%増）、セグメント利益は255,278千円（前年同期比33.8%増）となりました。

② iDC's iDC

当社の強みであるIPv6と仮想化技術を駆使した「VDC」サービスが引き続き増加し、8,000を超える仮想サーバを稼働させることができました。また、中国のSAP事業者を中心に新規クライアントの獲得活動も活発化しており、引き続き事業規模の拡大をはかってまいります。当事業は、投資が先行するビジネスモデルであるため、当第1四半期連結累計期間は赤字であります。事業規模が順調に拡大していることにより、赤字幅が縮小しております。引き続き利用者数を増加していくことで、さらなる収益性の向上に努めてまいります。

以上の結果、売上高は455,859千円（前年同期比9.5%減）、セグメント損失は38,935千円（前年同期は78,750千円のセグメント損失）となりました。

③ Maker's Maker

中国最大規模のコンシューマーエレクトロニクス企業であるaigo Digital Technology Co. Ltd (aigo) との提携に成功したことで、当社とaigoは、ユビキタス家電の開発を行う中国の合弁会社「SmartCloud」を設立し、より大規模でのユビキタス家電の開発体制が整ったことに加えて、aigo製品の日本における独占販売権を取得し、高品質かつコストパフォーマンスの高いユビキタス家電の独占販売が可能になったことで、事業構造改革プラン『SiLK Renaissance』に則り、自社による製品開発から撤退いたしました。当第1四半期連結累計期間を含む上期につきましては、以前の商品の在庫圧縮を講じてまいりますので、そのためのコストが発生いたします。

以上の結果、売上高は375,098千円（前年同期比32.5%減）、セグメント損失は131,886千円（前年同期は79,920千円のセグメント損失）となりました。

④ B2C

成長著しいクラウド領域とモバイル通信領域に対して積極的な事業展開を行いました。その結果、これまでの固定回線によるインターネット接続サービスに加えて、「ServersMan@VPS」や「ServersMan@Disk」といったエンドユーザー向けクラウドサービスの獲得とモバイル通信サービスの獲得が増え、両方が新規獲得数の70%を占めるまでに増加しました。両サービスは、今後も増加傾向にあります。

以上の結果、売上高は1,070,127千円（前年同期比1.8%増）、セグメント利益は172,281千円（前年同期は96,155千円のセグメント損失）となりました。

⑤ InternetMarketing

SEO（検索エンジン最適化）やリスティング広告（検索連動型広告）等による成功報酬型収入形態から、定額制の継続課金型収入形態へと構造転換を行っていることで、収益の安定化と改善を実現しております。また、当社グループの技術力を活かした新しいサービスの投入を開発し投入していくことで、他社との差別化と更なる利益の積み上げを行ってまいります。

以上の結果、売上高は1,490,730千円（前年同期比3,986.0%増）、セグメント利益は84,076千円（前年同期は6,740千円のセグメント損失）となりました。

⑥ SI

東日本大震災による企業の経済活動の停滞傾向は未だ否めず、企業の情報投資は抑制傾向が依然として続いており、顧客の値下げ要求と相まって、厳しい事業環境となりました。

以上の結果、売上高は146,909千円（前年同期比57.8%減）、セグメント損失は19,124千円（前年同期は39,294千円のセグメント利益）となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

当第1四半期連結会計期間の総資産は20,069,811千円となり、前連結会計年度と比べて871,393千円減少しました。これは主として、ギルドコーポレーション株式会社が連結の範囲から外れたことにより、のれんが796,122千円減少したことによるものです。

負債は13,439,479千円となり、前連結会計年度と比べて830,978千円減少しました。これは主として、長期借入金が増加したものの、短期借入金、支払手形及び買掛金が783,732千円、未払金が98,292千円及び負ののれんが82,667千円減少したことによるものです。

純資産は、四半期純利益により利益剰余金が増加したものの、ギルドコーポレーション株式会社が連結の範囲から外れたことにより、少数株主持分が減少したことにより、前連結会計年度と比べて40,415千円減少の6,630,332千円となり、この結果、自己資本比率は31.7%となりました。

2. サマリー情報（その他）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年4月30日)	当第1四半期連結会計期間 (平成23年7月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,095,929	5,443,711
受取手形及び売掛金	<u>3,557,289</u>	<u>3,267,658</u>
商品及び製品	953,039	<u>463,486</u>
仕掛品	2,548	28,999
原材料及び貯蔵品	16,079	8,656
その他	<u>1,877,215</u>	<u>1,819,987</u>
貸倒引当金	△121,192	△108,230
流動資産合計	<u>10,380,909</u>	<u>10,924,268</u>
固定資産		
有形固定資産	<u>1,484,482</u>	<u>1,323,771</u>
無形固定資産		
のれん	<u>5,939,863</u>	<u>4,908,421</u>
ソフトウェア	<u>195,239</u>	185,169
その他	36,650	50,632
無形固定資産合計	<u>6,171,753</u>	<u>5,144,224</u>
投資その他の資産		
投資有価証券	1,555,535	1,478,262
差入保証金	769,434	534,801
その他	<u>1,187,996</u>	<u>1,096,426</u>
貸倒引当金	<u>△608,905</u>	<u>△431,943</u>
投資その他の資産合計	2,904,060	2,677,547
固定資産合計	<u>10,560,296</u>	<u>9,145,542</u>
資産合計	<u>20,941,205</u>	<u>20,069,811</u>
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	<u>936,466</u>	<u>152,734</u>
短期借入金	3,970,030	2,085,368
1年内返済予定の長期借入金	2,153,724	2,169,236
未払金	<u>2,848,389</u>	<u>2,750,096</u>
未払法人税等	154,298	<u>110,973</u>
引当金	106,717	130,528
その他	<u>866,972</u>	<u>780,787</u>
流動負債合計	<u>11,036,598</u>	<u>8,179,725</u>
固定負債		
社債	400,000	350,000
長期借入金	1,928,877	4,134,123
引当金	3,556	5,396
資産除去債務	46,420	34,580
負ののれん	346,000	263,332
その他	509,004	472,320
固定負債合計	<u>3,233,859</u>	<u>5,259,754</u>
負債合計	<u>14,270,457</u>	<u>13,439,479</u>

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年4月30日)	当第1四半期連結会計期間 (平成23年7月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,043,285	3,045,085
資本剰余金	1,671,502	1,673,302
利益剰余金	<u>1,940,976</u>	<u>2,010,089</u>
自己株式	<u>△364,327</u>	<u>△364,327</u>
株主資本合計	<u>6,291,436</u>	<u>6,364,149</u>
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	9,953	4,723
為替換算調整勘定	<u>△4,650</u>	<u>△11,939</u>
その他の包括利益累計額合計	<u>5,302</u>	<u>△7,216</u>
新株予約権	828	828
少数株主持分	<u>373,180</u>	<u>272,571</u>
純資産合計	<u>6,670,747</u>	<u>6,630,332</u>
負債純資産合計	<u>20,941,205</u>	<u>20,069,811</u>

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成22年5月1日 至平成22年7月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成23年5月1日 至平成23年7月31日)
売上高	3,617,902	<u>5,035,179</u>
売上原価	2,540,127	<u>3,347,057</u>
売上総利益	1,077,774	<u>1,688,121</u>
販売費及び一般管理費	1,232,783	<u>1,529,705</u>
営業利益又は営業損失(△)	△155,008	<u>158,416</u>
営業外収益		
受取利息	754	3,838
受取配当金	119	744
貸倒引当金戻入額	—	15,924
負ののれん償却額	82,667	82,667
その他	15,182	17,958
営業外収益合計	98,723	121,133
営業外費用		
支払利息	22,352	42,338
持分法による投資損失	27,332	20,724
その他	5,043	<u>9,940</u>
営業外費用合計	54,728	<u>73,004</u>
経常利益又は経常損失(△)	△111,013	<u>206,545</u>
特別利益		
貸倒引当金戻入額	4,352	—
投資有価証券売却益	—	7,614
特別利益合計	4,352	7,614
特別損失		
減損損失	—	<u>29,220</u>
固定資産除却損	41	1,811
投資有価証券評価損	—	40,087
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	28,620	—
その他	—	8,168
特別損失合計	28,661	<u>79,288</u>
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期 純損失(△)	△135,322	<u>134,872</u>
法人税、住民税及び事業税	27,233	44,746
法人税等調整額	△31,229	<u>△70,106</u>
法人税等合計	△3,995	<u>△25,360</u>
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失(△)	△131,326	<u>160,232</u>
少数株主利益	4,103	<u>1,802</u>
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△135,429	<u>158,430</u>

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成22年5月1日 至平成22年7月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成23年5月1日 至平成23年7月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失(△)	△131,326	<u>160,232</u>
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△2,676	△5,228
<u>為替換算調整勘定</u>	—	△7,288
その他の包括利益合計	△2,676	△12,517
四半期包括利益	△134,003	<u>147,715</u>
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△138,135	<u>145,911</u>
少数株主に係る四半期包括利益	4,132	<u>1,804</u>

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) セグメント情報等

I 前第1四半期連結累計期間(自平成22年5月1日至平成22年7月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				
	ISP's ISP	iDC's iDC	Maker's Maker	B2C	Internet Marketing
売上高					
外部顧客への売上高	1,203,698	492,497	541,618	1,051,225	36,484
セグメント間の内部売上高 又は振替高	415,343	11,057	13,823	198	—
計	1,619,041	503,554	555,441	1,051,424	36,484
セグメント利益又は損失(△)	190,727	△78,750	△79,920	△96,155	△6,740

(単位:千円)

	報告セグメント	その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 3
	SI				
売上高					
外部顧客への売上高	213,841	78,535	3,617,902	—	3,617,902
セグメント間の内部売上高 又は振替高	134,386	2,058	576,867	△576,867	—
計	348,227	80,594	4,194,769	△576,867	3,617,902
セグメント利益又は損失(△)	39,294	23,235	△8,309	△146,699	△155,008

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△146,699千円には、のれん償却額△108,875千円、未実現利益の調整額△38,378千円及びその他の連結調整額554千円が含まれております。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

Ⅱ 当第1四半期連結累計期間(自平成23年5月1日至平成23年7月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				
	ISP's ISP	iDC's iDC	Maker's Maker	B2C	Internet Marketing
売上高					
外部顧客への売上高	<u>1,495,368</u>	<u>420,502</u>	314,082	1,068,260	<u>1,472,022</u>
セグメント間の内部売上高 又は振替高	349,126	35,356	61,015	1,866	18,708
計	<u>1,844,494</u>	<u>455,859</u>	375,098	1,070,127	<u>1,490,730</u>
セグメント利益又は損失(△)	<u>255,278</u>	<u>△38,935</u>	<u>△131,886</u>	172,281	<u>84,076</u>

(単位:千円)

	報告セグメント	その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 3
	SI				
売上高					
外部顧客への売上高	140,064	124,879	<u>5,035,179</u>	—	<u>5,035,179</u>
セグメント間の内部売上高 又は振替高	6,845	128	473,046	△473,046	—
計	146,909	125,007	<u>5,508,225</u>	△473,046	<u>5,035,179</u>
セグメント利益又は損失(△)	△19,124	<u>△10,237</u>	<u>311,451</u>	<u>△153,034</u>	<u>158,416</u>

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△153,034千円には、のれん償却額△146,128千円、未実現利益の調整額△5,933千円及びその他の連結調整額△971千円が含まれております。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

前第1四半期連結累計期間において、「その他」に含めていた「InternetMarketing」については、前第2四半期連結会計期間より、企業のWeb戦略支援等を行う(株)フルスピードを連結の範囲に含めたため重要性が増し、報告セグメントといたしました。なお、前第1四半期連結累計期間のセグメント情報は、当第1四半期連結累計期間の報告セグメントの区分に基づき組替えたものを開示しております。

前第2四半期連結会計期間において、アパレルの製造・販売を行うギルドコーポレーション(株)を連結の範囲に含めたため、報告セグメントとして「その他衣料販売」を追加いたしました。また、当第1四半期連結累計期間において、ギルドコーポレーション(株)を連結の範囲から除いたため、報告セグメントから「その他衣料販売」を除外しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「その他」において、固定資産の減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第1四半期連結累計期間において29,220千円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

「全社」において、ギルドコーポレーション(株)を連結の範囲から除いたため、のれんが減少しております。なお、当該事象によるのれんの減少額は、当第1四半期連結累計期間において796,122千円であります。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。